

11月10日 財政福祉委員会（山口清明議員）

第6期介護計画（案）を公表

今でも愛知県で一番高い保険料をさらに値上げするのか

11月10日の財政福祉委員会で第6期介護計画（案）が示され、第6期（平成27～29年度）の介護保険料についても見通しが示されました。

月額400円～500円の値上げ

まだ国の制度が確定していないため確定しないといいつつ、示された保険料（基準額）は月額5800円～5900円と、今でも愛知県下で一番高額の介護保険料をさらに400円～500円も値上げする見込みが示されました。

保険料が値上げになる原因は①高齢化で利用が増える②第1号負担率を21%→22%にする③介護報酬の改定。引き下げ要因は①現役並み所得者の利用料に2割負担を導入、②介護給付費準備基金の取崩し③収納率の向上と説明しました。

介護報酬を引き上げるとさらに値上げ

現時点ではまだ国の制度が確定しないなどの要因で未確定要素があります。①介護報酬の改定②公費を投入した低所得者の保険料軽減強化③介護給付費準備基金の残高などで保険料が変わります。今後、国から示される介護報酬額によっては値上げにつながり、介護給付費準備基金の取崩額を財源に、保険料上昇を抑制すると説明がありました。介護従事者の待遇改善につながる報酬改善は必要であり、国にきちんと財源を求めることは当然です。

低所得者に国庫負担で軽減策

介護保険料の段階は12段階から15段階に変更され、所得金額が280万円超の高額所得者は基準額の1.5倍だったものを1.7倍にするなどの引き上げ、年金収入80万円未満の低所得者には基準額の0.45から0.3にするなどの軽減策が盛り込まれ

ています。これまでかたくなに保険料軽減に公費投入を拒んで、保険料の枠内での軽減措置が取られてきました。日本共産党は、公費負担の投入で軽減を求めてきましたが、今回やっと実現しました。名古屋市も一般財源を投入して負担軽減を図るべきです

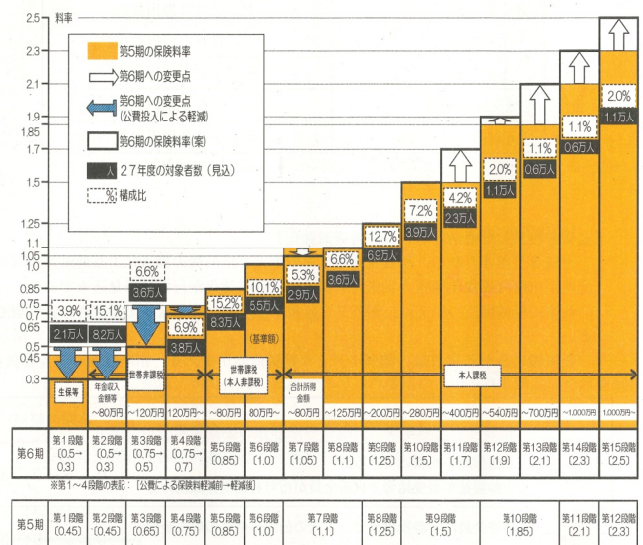
この後、パブリックコメントが行われます。ぜひ意見を申しこみましょう。

（第6期介護保険計画より）
第6期保険料基準額（月額）
5,800円台～5,900円台

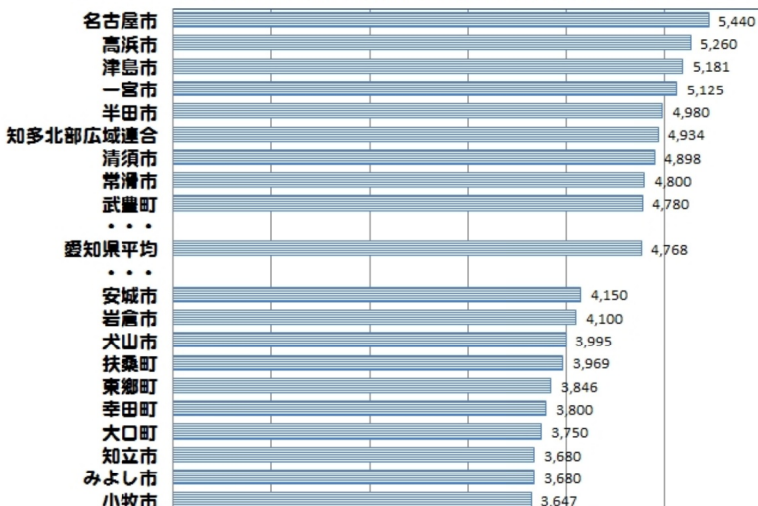
《引き上げ要素》
○高齢化に伴う保険給付費の増加
○第1号負担率の変更(21%→22%)
○介護報酬の改定見込

《引き下げ要素》
○2割負担の導入
○介護給付費準備基金の取崩し
○収納率の向上

《参考》
第5期保険料基準額（月額）
5,440円



愛知県の第5期介護保険料額（月額・円）



要支援・要介護者の将来推計（単位：人）

区分	第6期	第7期	第9期	
	27年度	32年度	37年度	
総人口	2,274,000	2,265,000	2,238,000	
うち	40歳以上	1,317,000	1,357,000	1,374,000
	65歳以上	553,000	580,000	588,000
	75歳以上	262,000	305,000	351,000
要介護者	要支援1	15,200	21,800	23,100
	要支援2	19,600	26,500	28,300
	要介護1	14,800	19,900	22,700
	要介護2	20,300	24,700	27,700
	要介護3	13,400	14,400	15,900
	要介護4	10,900	12,200	13,800
要介護5	8,900	9,200	10,300	
合計	103,100	128,700	141,800	
認知症高齢者	56,000	66,000	75,000	